

中国における「池田思想」研究の動向（10）

高 橋 強

1. 池田思想研究の学術シンポジウム等

(1) 第7回「池田大作平和思想研究国際フォーラム」

2013年3月2日「21世紀を展望した平和、文化と教育」のテーマのもと、台湾台北市の中国文化大学にて上記フォーラムが開催され、42の大学・学術機関から約50名の研究者が参加した。同フォーラムは中国文化大学「池田大作研究センター」設立10周年記念のフォーラムでもあり、中国大陸からは21大学の研究者が出席した。提出された論文は計52本であった。

「基調報告」では、中国文化大学の張鏡湖理事長が「創価学会の世界平和への貢献」と題し講演した。まず池田大作博士のハーバード大学での講演（1991年）に言及し、歴史の動因となる知識や情報、文化などの「ソフト・パワー」の潮流を指摘し、その基礎となる“内発性”の概念を掘り下げた同博士の先見性を評価した。また、池田博士のトインビー対談やゴルバチェフ対談に触れ、“歴史文化や国際政治の重要な問題の本質に迫り、卓越した議論を繰り広げている”と強調し、最後に、同博士の世界をつなぐ友誼の架け橋としての行動を讃えた。

以下、「会議論文集」及び配布された論文に基づき発表論文を紹介する。（以下敬称略）

林彩梅「国際創価学会と池田大作の貢献」（中国文化大学）

李俄憲「池田大作と巴金——両者の文学的志向傾向及び文学観の比較」（華中師範大学）

王玥、何広寿、陳湘如「池田大作平和教育思想緒論」（広西師範大学）

楊艦、曲徳林、仲雯雯「文化の歴史的反省と現代文化の方向性の探究——近現代日本の文化的価値観から見た池田大作の平和文化観」（清華大学）

高橋強「“生命蘇生”の哲理とその現代文明への示唆」（創価大学）

ZOSIO M. BATTAD, Ph.D. “Transcending Cultural Boundaries” (University of the East Caloocan Campus, Philippines.)

Richard Y. Yoshimachi and Benson “A New Spirit of Friendship: Daisaku Ikeda’s Approach

to Dialogue” (Ikeda Center for Peace, Learning, and Dialogue)

Olivier Urbain “The Art of Dialogue of Daisaku Ikeda Language, Music and the Arts for Peacebuilding in the 21st Century” (Toda Institute for Global Peace and Policy Research)

Graveson Mark Adam “How Karma Affects our Lives and How Music can Soften its Impact” (Chinese Culture University)

糸井川修「“平和の文化”の創出に向けて——池田・ウンガー対談とベルタ・フォン・ズットナ」(愛知学院大学)

王虹「池田大作と“ソフト・パワー”論」(アモイ大学)

王崗「池田大作の著作と日本語教育——『詩集 勝利の舞』を例に」(深圳大学)

黄国光「情報化社会の人間教育に対する一考察」(創価大学)

冉毅「慈行済人 到安得人——池田大作の“人間外交”思想の意義」(湖南師範大学)

曾建平「池田大作環境正義論」(井岡山大学)

董芳勝「池田大作の音楽価値観の今日的意義」(創価大学)

唐彦博「池田大作の世界観から国家発展の道を論ずる」(台北海洋技術学院)

黄順力「池田大作平和思想の現代国際関係に対する示唆」(アモイ大学)

章舜欽「池田大作の世界平和実現へのプロセス」(アモイ大学)

劉広英「滄海有涯 智慧無限」(中国文化大学)

王吉林「教育が未来を決定する」(中国文化大学)

王夏氷「希望・尊厳・幸福——池田大作の平和の女性の世紀を展望する」(安陽工学院)

俞慰剛「池田大作平和思想私論」(華東理工大学)

朱新建「日中友好は平和文化の偉大な実践——池田大作の名詩“桜花の縁”の分析を通して」(愛知学院大学)

陳鵬仁「新しき地球社会の創造」(中国文化大学)

紀亜光「世代友好と世界平和——周恩来、池田大作の平和友好追求の時空」(南開大学)

韋立新「池田大作の平和文化観」(広東外語外貿大学)

原青林「池田大作の教育観と存在主義教育観との比較」(肇慶学院)

劉廷揚、洪嘉榮「池田大作教育思想と青少年の生活ストレス、情緒管理の関係」(高雄師範大学)

拜根興、梁山「SGI(国際創価学会)記念提言の新解読——2000-2010年の記念提言を中心として」(陝西師範大学)

王萬清「心の蘇生の道」(南台科技大学)

李坤崇、康雲山「池田大作の人本思想とMaslowの人本哲学の比較」(台南科技大学)

白文章「調和、寛容、共生の実践こそが人間主義の核心的価値」(東呉大学)

王明兵、大上忠幸「池田大作の多元文化と平和的対話の倫理原則と哲学的示唆」(東北師範大

学、創価大学)

孫承「池田大作の平和思想と東アジア共同体構築へのプロセス」(中国政法大学)

仲雯雯、楊艦、曲徳林「池田大作環境教育理念の協調観」(清華大学)

王龍彪「大学生の思想教育法」(湖南師範大学)

劉焜輝「生命尊厳と心の蘇生——池田大作の生涯追求した指標」(中国文化大学)

傅紅英「池田大作の生命尊厳思想及びその現代教育への示唆」(紹興文理学院)

陳立新「中国大陸の農村“撒点並校”から見た教育と社会体系の重層構造」(上海杉達学院)

林進忠「池田大作の芸術教育思想」(台湾芸術大学)

林彩梅、林廷璘「生命尊厳の擁護と心の蘇生教育」(中国文化大学)

陳曉春「低炭素処理の視点からの生態文明制度建設研究——池田大作の生態思想」(湖南大学)

曹婷「池田香峯子と池田大作の家庭教育観」(陝西師範大学)

林彩梅、周育甄「池田大作教育観の教育と企業の発展に対する重要性」(中国文化大学)

王麗栄、呂帥「池田大作の児童教育思想」(中山大学)

周建亨「寛容は教育の核心、繁栄と永続的発展の基礎」(中国文化大学)

譚廷輝「未来を拓く教育という聖業——池田とデンマークの教育者ハンス・ヘニングセンの友情対話」(薬剤師公会全連合)

張文龍、陳思婷「創価教育の真善美」(中華民國工業協進会)

李彦良、翁錦棟、陳尚彦「創価教育体系の大学の教師評定の価値に対する研究」(中国文化大学)

温憲元「池田大作の生命尊厳を中心とした創価生態倫理思想」(広東社会科学院)

鐘明華「池田大作の仏法人間学思想のロジックと現実的達成」(中山大学)

本シンポジウムは、中国文化大学「池田大作研究センター」設立10周年記念ということもありテーマが“平和、文化、教育”という広範囲のものとなった。

一番多くの研究者が取り組んだのは「平和」に関してで、計20本提出された。様々な視点からのアプローチがあったが、池田の「対話論」や「対談の実践」の視点に注目が集まった。同様の領域として「ソフト・パワー論」、「人間外交思想」、「中日友好促進の実践」、「世界平和へのSGI提言」等の視点からの取り組みもあった。更に平和を教育や文化の観点からとらえ直す「平和教育思想」、「平和文化論」の視点、そして「女性の世紀論」、「寛容論」、「世界観」等の視点も大変に興味深い。

次に多かったのは「教育」に関してで、計13本提出された。「生命尊厳思想」、「人間教育」、「創価教育」の視点からの取り組み以外に、「家庭教育」、「児童教育」、「企業内教育」の視点や、更に「寛容論」、「読書観」、「存在主義教育観との比較」の視点からの取り組みもあり、深まりを感じた。なお「情報化社会と人間教育」、「ストレスの改善や情緒管理」の視点は、喫緊の社会問題に言及しており大変に興味深い。

「文化」に関しては計5本提出された。「文学者・巴金との比較」、「日本語教育から見た池田の著作」、「音楽価値観」、「文芸教育」等の視点からアプローチがなされていた。研究成果は多くないが、一貫して探求する研究者の存在は重要である。

池田の3つの主義、「平和主義」「教育主義」「文化主義」のその根底は「人間主義」である。その人間主義に関しては計7本の論文が提出された。「カルマ論」、「九識論」、「立正安国論」、「仏法人間学」、「生命尊厳」、「調和・寛容・共生の実践」等の視点から、池田の根本思想への探究がなされていた。

なお現在、中国大陸での新たな取り組みである「生態文明」建設に関連して、池田の「環境正義思想」、「環境教育」、「創価生態倫理思想」への新たなアプローチもなされていた。

(2) 2013「池田大作思想シンポジウム」

11月23日「21世紀の生態文明に向かって」のテーマのもと、広東省の広州市にて上記シンポジウムが開催され、21の大学・学術機関から約50名の研究者が参加した。提出された論文は計22本であった。

開幕式において多数の来賓から挨拶があったが、その中に多くの有意義な視点が含まれていた。例えば「人間と自然の關係に注目する池田思想は、今日中国が目指している『生態文明』構築の為の理念と一致する」「池田思想を深く議論することは、生態文明への認識を深めるとともに、全人類の持続的発展に重要な意義をもつ」とか「池田氏の“自然”は人類の創造を含み、それは人類の内面に相對する全ての外部世界である」「池田氏の自然との對話には、人間性、過去と未来、宿命及び人生のドラマが反映されている」とか「池田氏の主張する“環境教育を基礎として持続可能性を追求する”と“環境保護の協力をもって共生的地球社会の基礎を構築する”は、非常に示唆に富んでおり、中国の生態文明建設の加速化に利する」等である。

午前中、以下の8名の研究者による基調講演があった。（以下敬称略）

黄順力「“人地の共生”と“人道競争”」（アモイ大学）

高岳命「池田大作思想と中国生態文明建設思想との共通認識」（仲愷農業工程学院）

孫立川「グローバル化潮流下の生態文明の危機」（香港天地圖書）

紀亜光「池田大作の生態文明観の人文的関心」（南開大学）

汪鴻祥「生態文明建設の重要な理念」（創価大学）

張宙「池田 SGI 会長の平和提言と持続可能發展観」（香港理工大学）

高橋強「池田大作“共生”思想緒論」（創価大学）

温憲元「池田大作生態文明思想及びその示唆」（広東社会科学院）

午後の研究発表は以下の通りである。

蔡開賢、王麗榮「現代医療の正義の構築」（広州医学院、中山大学）

陳曉春、彭艷陽、施卓宏「多元的管理の視点からの生態文明建設の制度設計」(湖南大学)

韋立新「東洋の智慧と生態文明建設」(広東外語外貿大学)

官建生「生態文明は生命文明の礎石」(韶関学院)

蔡立彬「池田大作生態文明思想及びその示唆」(仲愷農業工程学院)

劉佳寧「生態文明の意義への再認識と広東生態文明発展研究」(広東社会科学院)

蔣菊「生態文明と教育」(肇慶学院)

鄭文娟「池田大作の調和自然観の生態文明建設に対する重要な示唆」(南開大学)

奥田真紀子「地球市民育成の教師観」(中山大学院生)

原青林、李玉秋、李琨、孫苗「池田大作の生態教育観及びその啓示」(肇慶学院)

張造群「中国伝統生態思想の現代的価値」(広東社会科学院)

蔡瑞燕「池田大作生態文明思想の3つの関連」(仲愷農業工程学院)

王麗娟「生態文明の価値と建設過程」(広東社会科学院)

黃曉慧「生態文明の視点から見た海洋文化と都市」(広東社会科学院)

劉俐、王麗榮「諸外国の環境教育の我国生態文明建設に対する示唆」(華南農業大学、中山大学)

なお創立者からのメッセージに対し、特に鐘明華(中山大学)、邢榮發(マカオ科技大学)から講評がなされた。

本シンポジウム招集人の一人である広東社会科学院の温教授の発表には、シンポジウム全体を流れる問題意識が反映されていると思われるので概要を紹介する。

概要：

[大意] ——池田の生態文明思想は、生命尊厳を中心とし、生命尊厳と生態倫理をもって道徳的感情に訴えかけ、父母に孝行し年配者を尊敬するように、天地や自然を尊重し、慈悲と思いやりをもって生命を大切にすることを望んでいる。従って池田の生態文明思想は生命尊厳を中心とする創価理論体系の重要な構成部分である。[第1章「生命尊厳を中心とした生態文明思想」] ——人間それ自身への関心から「六道」の衆生に至り、人生の病苦への関心から全ての生命の運命に至る点が池田の創価生態倫理の根本的特徴で、ここでは同倫理は人類の倫理から生命倫理へと昇華させられている。生命倫理は「同体大悲、無縁大悲」を基礎とし、世界を不可分で循環的に流伝している運命共同と見なし、人類をその中の一部分となし、自身に関心を持つようにその他の生命にも関心を持つ。この種の生命倫理は、衆生は平等であるとの精神を実現し、人類中心主義の局限を乗り越えることができる。[第2章「寛容と尊重を根本とした生態文明思想」] ——池田は繰り返し自然を尊重し、自然の規律を遵守しているが、これは自然に対する寛容を十分に体現している。生態倫理文明は自身の権利に対する肯定を強調するばかりでなく、寛容の自然的存在も訴えている。寛容を生態倫理文明の価値とするのは、それは自然界の豊富性や複雑性への多元的承認である。このような寛容的生態倫理観は、異なった物の存在に対しても平等に対処し、自

然権を与え十分に保障しており、池田の創価倫理思想と類似している。[池田大作の生態文明思想の現代への示唆] ——①意識を啓蒙する教育を通して、生態教育の為の機能を発揮するよう促している。池田は、教育の枠組みを制定し意識教育を行い、一人一人を「自強」から更に指導的役割を発揮するよう促し、人間の尊厳を擁護し、小さな単位から行動を展開することが重要であると指摘している。②生態の異化を克服し、生態文明建設の歩みを早めている。池田の生態文明思想は、創価理論体系から全ての世界を見、全世界は一つの統一的な全体であると考えている。人間もこの全体の中の一部で、人間と自然界の万物は生態系の中の要素で、平等な位置関係にあり、自然の上に凌駕することはできない。③生態観を改善し、生態文明の実践を推進する過程を早めている。観念は思惟を決定し、思惟は行動に影響する。正確な思想観念を樹立して初めて生態文明を正しくしっかり建設することができる。

本シンポジウムには創始者から意義深きメッセージが寄せられたが、その中では生態文明を開く重要な要素として、「教育」と「協力」が強調されていた。本シンポジウムには「教育」の視点から2本の論文が発表された。その内、原青林、李玉秋、李琨、孫苗「池田大作の生態教育観及びその啓示」は、創始者の生態教育観を考察した興味深い論文なので、その概要を紹介する。概要：

[大意] ——池田の教育観の特徴は、人類の運命、人類の平和と社会の調和に関心を寄せる人間教育観で、生態教育観は人間教育思想の重要な内容である。

[第1章「創価生態教育帰因論」] ——池田の生態教育の帰因は、次の2点である。①科学技術の乱用が人間と自然の関係を日増しに悪化させた、②人類の精神の荒廃が自然の生態環境を日増しに悪化させた。[第2章「創価生態教育の理想の核心論」] ——人類自身の心の調和と人類と自然の調和を如何に構築していくか。池田はその根本的道は、人を根本とすること、生命を大切にすること、人間革命に関心を寄せることを実現すること、そしてその理想の核心は宗教と教育である。[第3章「創価生態教育帰結論」] ——①誠実と無私は人類が和やかで善良な生態社会を構築することができる。その為に必要なのは“利他”と“慈悲”の人である。②慈悲と人間を根本とした生態観は調和のとれた生態社会を構築することができる。

(3) その他（学部生・院生のシンポジウム及び討論会等）

①9月8日、南開大学「周恩来・池田大作研究会」が池田大作中日国交正常化提言45周年記念「国際青年学術シンポジウム」を開催した。これには南開大学同会の学生、大連工業大学「池田大作読書会」の学生、創価大学の学生ら約70名が参加した。シンポジウムの冒頭、「1968年池田大作の“日中国交正常化提言”とその今日的意義」（創価大学高橋強）、「“池田提言”と中日関係の発展」（南開大学馬亜男）と題し基調講演が行われた。

②11月16日、中国文化大学「池田大作研究センター」が「21世紀を展望した平和、文化と

教育」のテーマのもと、「池田大作平和思想研究第1回国際青年フォーラム」を開催した。これには9つの大学から約300名の学部・大学院生が参加した。提出された論文は計19本であった。

発表論文は以下の通りである。

「第1セッション」(平和創造の新世紀)

楊曉宜「平和な新世紀を創造——宗教対話と共築の理想」(台湾大学)

盧恩広「池田大作のSGIを通じた国連における役割と貢献」(政治大学)

蘇瑋婷「池田大作の平和共生精神から見た労働者の価値観及び市民組織化研究」(高雄師範大学院生)

「第2セッション」(人間教育と価値創造)

呉芝嫻、王瑋琮、呉任題「青年の存在価値が世界の脈動に如何なる影響をもたらすか」(中国文化大学)

葉好恩、李廷軒、蘇郁程「教育の為の社会を構築——池田大作教育観と実践」(政治大学)

洪萬成、侯迦臣「学歴と教育——池田大作の教育観から見た理想の大学教育」(成功大学、東呉大学)

「第3セッション」(青年と女性の力で世界平和の構築)

黃琳媛、黃暉茹、徐懿成、高千蘆「女性の声と行動で世界の変革を——平和のソフト・パワーを推進」(中国文化大学)

謝忠璋「対話ニューパワー——池田大作と創価学会の“点から面”への台日中平和運動」(台湾大学)

王綉茹「創価教育理念の台湾教育の“忙、漠、盲”への示唆」(高雄師範大学院生)

「第4セッション」(教師の質的向上と人材育成の使命の発揮)

廖祥任、蕭閔云、欧治鈞「二十一世紀の知識人の実践」(台湾大学)

曾期星「服用しよう。教育現場の困窮を突破する良薬を。——池田大作・A・リハノフ対談『青少年に贈る哲学』からの国立中学の教育現場への示唆」(新北市蘆州国立中学教師)

黎玥岑「教師は最重要の教育環境——池田大作の教育信念」(台北市立和平高校教師)

「第5セッション」(人間教育と人間革命)

陳立言、黃庭婷、廖晨安、林子文「人間教育を通して多元的人材の育成を」(中国文化大学)

楊柏賢、李抒敏、李渝萱「世界平和を達成する根本的行動——“普賢”の視点から」(台湾大学)

葉伊婷「池田大作の教育理念から現代の外国語学習の役割を論ずる」(台湾師範大学)

「第6セッション」（文化交流と相互理解）

李雅雯、劉妹姪、楊超丞、黃謙茹「文化と平和交流で豊かな世界を創造」（中国文化大学）

黃彥庭、翁于涵、邢姪如「人間芸術——人間性を喚起する対話」（政治大学）

熊婉琪、賴佩宇「池田大作の反戦理念と平和対話」（淡江大学、実践大学）

黃大為「青年の海外進出の現状——池田先生の平和理念の実践」（高雄師範大学院生）

③ 11月17日、大連工業大学「池田大作研究所」が「池田大作読書会」を開催した。これには同大学、大連外国語大学、大連海事大学、大連交通大学、大連芸術学院、創価大学の教職員・学生約30名が参加した。

2. 新設の池田大作研究機関

(1) 華東師範大学「池田大作社会教育研究センター」2013年11月設立

センター長：羅国振教授（校務委員会副主任）、副センター長：孫玫璐副教授（職業教育成人教育研究所副所長）

主旨：池田大作氏の提唱する教育は、学校教育のみならず家庭教育、社会教育、生涯教育等を包括している。池田氏の教育思想、社会教育思想の研究を通し、①中国での池田社会教育思想研究の拠点を構築し、②華東師範大学と創価大学との交流を促進し、③中日民間友好交流の「金の橋」を構築する。

(2) 復旦大学「池田大作思想研究センター」2013年11月設立

センター長：胡令遠教授（日本研究センター長）、副センター長：熊慶年教授（高等教育研究所所長）

主旨：池田大作氏の世界平和と中日友好、更に国際的な文化交流と教育交流への多大な貢献に鑑み、①池田平和思想、②池田教育思想、③池田哲学思想の研究を推進する。

(3) 大連芸術学院「池田大作教育思想研究所」2013年12月設立

所長：黄金色教授（学長顧問）

主旨：池田大作氏の教育に関する思想や実践の研究を通し、教育分野における中日両国の相互理解と交流促進を推進する。

3. 池田研究の成果等

2012年3月に広東省韶関学院で開催された「二十一世紀と生命の尊厳——2012 池田大作思想シンポジウム」（広東省社会科学院と韶関学院の共催）の論文集『走向21世紀的生命尊嚴』（梁桂全、曾崢主編、中国社会科学出版社2013年3月）が出版された。

南開大学「周恩来・池田大作研究会」が雑誌「金橋」（第3期2013年12月）を発刊した。

高橋強（創価大学）が国際学術シンポジウム「魯迅と20世紀中国」（3月23日、24日南京師範大学）で「池田大作の心の中の教育者・魯迅」と題する研究論文を発表した。

高橋強が国際学術シンポジウム「周恩来と20世紀中国と世界」（10月22日、23日、24日南開大学）で「教育者・池田大作の心の中の周恩来」と題する研究論文を発表した。

なお日中友好学術研究助成プログラムで、「池田香峯子研究」（陝西師範大学、曹婷）が日本滞在研究助成として採択された。